

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域、家族、職員の連携により利用者と共に支えあいながら生活環境の向上をはかると言う理念で実施されている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の理解、共有をしながら日々の実践に取り組んでいる。</p>	<p>新規職員に対して理念の共有にむけて指導し、また現任職員に対しても継続的な振り返り、理念の確認に取り組んでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入所時からご家族に対して理念の説明、実践内容の報告を家族会等を通じておこなっている。また地域との関わりの中で弊社の理念を理解して頂けるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣接する畑の方々と収穫物のやりとりや日常的な会話(挨拶や世間話)をして、良好な付き合いをしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>敬老会への招待をうけ参加したり、地域の方の訪問を快く受け入れている。</p>	<p>より地域と関わりを密にして、地域との相互協力関係を築いていきたい。</p>

グループホームひだまりの里とよしな

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>現在、管理者会議にて検討している。</p>		<p>地域のニーズに沿った事業所の役割を今後も検討し実施していきたい。運営推進会議での要望など取り入れたい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年中の課題「医療連携体制」については医療機関との連携が昨年より整い、重度や看取りについての実践が可能になってきた。</p>		<p>福祉関連団体との連携、協力体制を築いていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を定期的に関き、取り組みについて報告している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>同地区内の民生委員の視察研修などの受け入れや一般住民向けの認知症講座などの依頼があり受け入れている。</p>		<p>今後も続けていく予定。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>実施してない。</p>		<p>利用者家族に行政書士がおいでなので成年後見についての学習会など進める予定。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>他施設やニュースなどの事件、事故事例を会議にて検証し、当施設の業務に反映させている。</p>		<p>各職員が虐待についての正確な見識を持ち、相互注意をはかっていきたい。</p>

グループホームひだまりの里とよしな

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		

グループホームひだまりの里とよしな

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現状では利用者や家族の変化に対しては通常勤務形態の中で対応しているが、緊急時や必要性を感じた場合に、職員間で調整し対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職等の事情により在籍職員の異動もあるが、利用者や職場内の不安やストレスを声かけや説明、異動後の問題解決に向けた話し合いや、検討をおこなっている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>1年間の研修プログラム、個人のスキルアップの為、入社から5年間のプログラムを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>松本圏域グループホーム連絡会を作り交流している。また他施設との交換実習や相互評価をおこなっている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者は各職員の業務の様子、日常の関わりの中からストレスの発見、軽減に努めている。また、相談や適切な言葉をかけている。</p>		

グループホームひだまりの里とよしな

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己啓発カードを使い各職員が目標、実績、評価をおこなっている。運営者、管理者も各職員に対してアドバイスをおこなっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前見学、訪問により本人と話す機会を設けている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話相談、見学、訪問により機会を作り相談にのっている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネジャー、ご家族と話をして検討している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所形態の為、契約、入居後サービス開始となる。		本人の状況により通いや短期入所が可能であれば徐々に馴染めるように対応する。

グループホームひだまりの里とよしな

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>弊社の理念、ケアの心構えに取り入れている。</p>	
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族とのコミュニケーションを重視し利用者を軸に支えあう関係が出来ている。ご家族の喜びや不安も共に感じ相互信頼を作っている。家族会での思いの共有も大切にしている。</p>	<p>日々の密接な関係を今後も継続して、また職員が変わっても共有できる状態を維持していきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>認知症や個人が抱える問題をご家族と共に理解、共有し職員、家族、本人との良好な関係構築にむけた取り組み(家族の不安や入所に至った罪悪感のケア)をおこなっている。</p>	<p>入所理由がご家族の介護疲れや、本人の自立生活の困難など、マイナスな状況からの関係構築になる為、初期の信頼関係作りに今以上の努力をしていきたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今までの生活歴も配慮し本人の大切な物事、人に対して継続的な関係が維持できるように支援している。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者関係を把握し適切な支援提供、孤立しないように個別支援にも取り組んでいる。</p>	

グループホームひだまりの里とよしな

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>特養への入所の方は、その後家族のほうからお話を伺ったり、職員も訪問しているが様子の変化に家族も職員も戸惑いがあった。</p>		<p>関係の継続は必要の有無の見極めをし、支援していきたい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中から思いやニーズを受け取り支援に反映させている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご家族、本人から状況に応じた聴き取りや情報収集をし把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の状態観察、職員間で情報交換をおこない現状の把握に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員各自が課題を出し合いケアカンファレンスにて介護計画書を作成している。</p>		

グループホームひだまりの里とよしな

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期的な見直しを図っている。	
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個人記録、業務日誌、申し送り帳等に記録し残している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人の状況に合わせて、居室や生活道具を変化させ、個々の要望に素早く対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	運営推進会議、地域の行事参加等で地域の方々との協力関係ができた。	個人単位のボランティアや利用者の意向に沿った地域資源の活用を模索していきたい。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	同社内他、他サービス(通所)利用はおこなっている。	

グループホームひだまりの里とよしな

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて話をしている。		地域包括支援センター、ケアマネージャーと協力していきたい。
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診内容、薬についての説明等、家族のお知らせの中に入れて情報提供している。また、必要に応じてご家族に受診の同行をお願いしている。		ご家族と協力医の関係を密になるように職員を含めた三者の関係作りに努めていく。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医だけでなく、精神科医に相談、受診、治療を依頼している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションの定期的健康管理、緊急対応をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の家族との調整、また早期退院に向けて病院関係者、契約訪問看護師、家族と共にカンファレンスをおこなっている。その上で必要に応じ個別契約訪問看護等対応している。		協力医、訪問看護スタッフとの定期的なカンファレンスを基に、利用者の的確な状況判断、協働をはかっていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早期から医師を含めたカンファレンスをおこなっている。		状況に応じてご家族との意見交換、今後に向けた支援の取り組み等、今以上に重ねていきたい。

グループホームひだまりの里とよしな

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>日々の生活の中から、些細な変化でも職員間で話し合い、利用者の今後に対応できるようにしていきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>集団的な関わりの中で、個人の尊厳が損なわれないように、支援に対しての対応や言葉を日々注意していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

グループホームひだまりの里とよしな

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>原則として本人のペースに合わせた生活を提供しているが、集団生活のなかで完全な個人の自由な生活は提供できていない。</p>		<p>個人の思いと、集団での暮らしを照らし合わせ、今以上に個人のペースを大切にしていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>化粧品や装飾品など本人が望む品を購入できるように支援している。また美容院などおしゃれが楽しめるように努めている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材整理から食事準備まで利用者が関わることが出来、献立の希望や調理方法（味付け）等、利用者の意見を取り入れている。</p>		<p>主に調理する職員の技術向上や、メニューの幅を広げていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の嗜好に合わせて、ビールやジュース、お菓子など個人で楽しめるように支援している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>各利用者の排泄パターンや支援のタイミングをつかみ、実施している。</p>		<p>身体機能の低下や、認知症の進行で排泄の状況も変化するので、対応力を身につけ職員間で情報交換を行っていきたい。</p>

グループホームひだまりの里とよしな

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望者に声をかけ、入浴時間と本人の予定と調整をはかっている。 希望をすべて叶えることは出来ていないが、入浴を楽しめるような配慮はおこなっている。		職員の業務態勢により、夜間や急な入浴希望には対応できないので、今後も利用者の希望に沿えるように検討していきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファーや畳の間で休息をとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭仕事や家事参加から生活の張り合いが生まれている。利用者それぞれの気晴らしや楽しみを日々の時間の中で提供している。		より利用者のニーズや趣味、嗜好を探り実施に向けて利用者との関わりを深めて支援していきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者それぞれが嗜好品を購入する際には、自分でお金を持ち使えるように支援し実施している。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物等希望に沿って外出している。外食も利用者の希望に沿っておこなっている。		

グループホームひだまりの里とよしな

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足などの外出行事を催し、利用者のニーズに沿った目的地を設定している。またいつでも家族と共に外出できるようにしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等のやりとりは自由になっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の来訪や来客の方には、明るく対応し、気軽に訪問できるような雰囲気を持ち、受け入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	支援にあたっての概念に身体拘束を正当化しないように取り組んでおり、身体拘束は行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけず、見守りを十分おこなうことに努めているが、利用者の状態によっては一部施錠をする箇所がある。		施錠する事によって利用者の自由や行動を抑制してしまう事を念頭におきながら、いかに施錠せず対応できるかを検討していきたい。

グループホームひだまりの里とよしな

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>勤務職員同士、声を掛け合い、また所在情報を共有し利用者の把握に努めている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>個人に合わせた対応の実施。また状態に応じて対応に変化をつけた支援を実施している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>研修、勉強会での取り組み、またヒヤリハット事例の検証、活用をおこなっている。</p>		<p>日ごろから事故に対するの防止意識を高め、様々な事故事例を検討し防止対策に心がける。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>消防署に依頼し年に一度訓練、指導を実施している。</p>		<p>訓練を基に職員間で応急手当や初期対応の知識、技術を身につけたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>地域全戸避難訓練に参加。災害時の地域協力態勢を築けている。</p>		<p>より地域との協力関係の強化に努めていきたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>ご家族に対し予想されるリスクについての説明、またリスク対応についてもご家族の意見を取り入れ支援方法を検討している。</p>		

グループホームひだまりの里とよしな

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>日中責任者を中心として体調不良、異変の早期発見、その後の情報共有に努めている。場合によっては看護師へ連絡をし適切な処置、対応をおこなっている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>受診時の説明は申し送り、服薬説明書はケースファイルに保管し、職員全員が確認出来るようになっている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>日常の体操や、繊維質の多い野菜を使った食事の提供をおこなっている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>基本的に毎食後の口腔洗浄、歯磨きを実施している。 義歯の洗浄を周期的におこなっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量の記録。各利用者の食事、水分摂取の状況を見ながら、適切な支援(栄養補助食品や嗜好に合わせた飲み物の提供)をおこなっている。</p>	

グループホームひだまりの里とよしな

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は利用者、職員が実施している。感染対策マニュアルを作成し防止に努めている。		感染防止マニュアルの見直しや理解徹底を図って行きたい。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、布巾、まな板等の調理道具を塩素系漂白剤等で消毒している。食材管理についても安全に努めている。		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰もが自由に入れるように施錠はしていない。玄関には花や季節物の展示物を飾り、緩やかなスロープを設けている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を置いたり、過ごしていても不快にならない環境整備に取り組んでいる。季節によって日照時間が異なるため、カーテンやブラインドを使い光の調節に努めている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆でくつろげる畳スペースや一人で景色を楽しむ為のソファを設置している。また共同で作業、過ごせるようなテーブルの配置にも心がけている。		

グループホームひだまりの里とよしな

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が快適に過ごせる居室環境、整備をご家族と共に考え、配慮している。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>季節、気温に応じた温度調節、またトイレや浴室等も使用後の換気を徹底している。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各利用者の身体機能に合わせたベットや配置になっている。また、建物内部に手摺りをつけ安全な歩行や生活が送れるようにしている。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>椅子に本人用の座布団を付けたり、居室が分かるように目線にあわせた表札を付けている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>畑に行き野菜を収穫したり、テラスから庭にでて散歩やマレットゴルフをして楽しむことができる。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に つけること)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホームひだまりの里とよしな

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームでは利用者一人ひとりに様々な場面で寄り添い、ニーズをはかり日々の生活の中で良好なパートナーとして各職員が尽力している。職員の職務は業務優先よりも、その場の利用者に対して関わりを深めることを優先させ、生活介助や支援をおこなうこととしている。家族的な関わりや環境作りに心がけ、また福祉のプロとして各職員がスキルアップに向けた取り組み(勉強会参加や、課題検討の小会議)にて資質向上をはかっている。「心に入った関わり」を通して利用者との生活を送っています。